

## 第21回とさ・子ども主体の学校生活づくりを考える会（通称りぐる会）

テーマ ～豊かに生きよう～今を 明日を 将来を～ 報告

令和6年2月23日（金）に開催されました「第21 回りぐる会」の報告をします。

今までずっと会場であった「葉山」が営業再開、ホームグラウンドに戻ったようで懐かしさいっぱいです。

- 1 出席者は20名で、内訳は特別支援学校9名、特別支援学級4名、教育研究所2名、市・県職員2名、助言者・事務局が合わせて3名でした。
- 2 話題提供は、「生徒主体の作業学習から合同販売会へ」と題して、高知市立城西中学校教諭 下元 美樹 さん。知的障害特別支援学級担任になって3年間の実践を紹介。当初右も左も分からないので、いろんな実践にふれ、研修会にも足を運び、・・・「子どもたちの幸せのため」に・・・人と繋がり・・・自らの人見知りの性格を克服しようと努力。作成した新聞バッグを地域の商店街へ定期的に配布して3年。本年度は地域の協力を得て商店街で初めての販売会を開催。さらに高知市立中学校へ呼びかけて同商店街で合同販売会を12月に実施し、大盛況。高知新聞でも話題に。3月1日、2回目の5校合同販売会を開催。
- 3 講話は明治学院大学准教授 高倉 誠一 さん。知的障害教育は、生活に取り組むことを教育とみなし、「知的障害のある児童生徒の学習上の特性等」について、「実際の生活に即しながら、具体的に学習」「自信や主体性に取り組む意欲を育む」こと。そして、「抽象的な内容より、実際的な生活場面の中での、具体的な指導が大切」等、文科省の解説に基づいて話されました。
- 4 久々、思いっきり、はっちゃけた「懇親会（土佐弁で“お客”）」でした。小学校の学級での実践を中学校にどのように具体的に繋げていくか、連携のありよう等についての話題や、本市の学校・学級では「合わせた指導」の実践をすすめている一方、県下的になかなか厳しい状況があり、子どもたちの様子を見るにつけ苦しんでいる教師が結構いたり等。会場のあちらこちらで2～3人が輪になって、悩みを共有し・・・飲み、食べ、喋り・・・心地よい交流、元気になる交流、楽しい夜になりました。

次回は、令和6年夏ごろを予定しています。またお会いしましょう。



令和6年3月 「りぐる会」事務局

シンボル 八葉

- 一 子ども主体
- 二 続ける
- 三 実践をベースに高め合う
- 四 柔軟な対応
- 五 仲間を増やす
- 六 あせらず じわじわと
- 七 功を求めず
- 八 本音で語ろう

\*「りぐる」とは 土佐弁で ①いつもよりがんばる 念入りに ②筋を通して、軸をぶらさない です。文：事務局